



# 田崎学舎

㊦のしく ㊧わやか ㊨れいな 我らが学び舎  
【合い言葉】… 高みを求めて一歩前進

## 手を取り合って

校長 岩戸 淳

NHKの大河ドラマ「篤姫」がテレビで放映されたのが、もう十何年前になるでしょうか。「西郷どん」もすでに五年が経ち、記憶が薄れ始めていますが、どちらもテレビを通じて鹿児島が大いに盛り上がりました。…と、書き出すときりがありませぬので、その中で私が鮮明に記憶している「篤姫」の、とあるシーンから一つピックアップします。

それは、樋口可南子さん演じるお幸（実母）が、藩主 島津斉彬のもとに、我が娘（於一：のちの篤姫）が養女として上がる前夜、その娘に対して「決して、一方聞いて沙汰してはなりません。」と諭したシーンです。一方の言い分だけを聞いて何事かを判断するのは、偏った見方になって判断を誤る、との教えです。当時、自分の置かれた状況と重なって、そのシーンに深く共感して強く脳裏に刻まれたものと思ひ返します。時は流れ、今や、情報があふれる時代を生きている私たちが、ややもすると気付かないうちに一方的な情報に流されてしまいがちな中、お幸が於一（篤姫）に諭したことの意味を、改めてかみしめていきたいと思うこの頃です。

私は、子供にはいろいろあつて当たり前だと思つています。小学生は、この世に生を受けてわずか六年、十一年の子たちです。これから紆余曲折、様々な体験や経験を経て一人前に育つていくものだと思います。

新しい学年の環境に慣れてきた頃、日々の生活の中で、思いどおりにならないことに遭遇するでしょう。むしろ、思いどおりにならないことのほうが多いかもしれません。そんなとき、どのように折り合いをつけていくか、とても大事なスキルのような気がします。このスキルを身に付けていくためには、心を揺り動かされる様々な体験をすること、そして、その過程で様々な人と出会い、交流することが大切です。勉強のこと、友達のこと、…うまくいかないことや悩みは必ず出てくるもの。それを大人が見聞きしたとき、受け手の大人がどのような感想をもつか、受け手の受け取り方によって意味が異なってくることもあるやもしれません。そんなときは抱え込まずに、その情報を共有することです。

一方的な情報だけに流されないうちには、情報を正しく取捨選択することも大事です。子供を健全に育てるといふことは、家庭と地域と学校とが手を取り合つてこそ、成せるものだと思います。